

(6)基本目標6 要支援児童へのきめ細かな取組の推進

【網掛け】重点施策

【進捗状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

6-1) 児童虐待防止対策の充実

No.	事業名	目標	目標事業量	平成23年度末 進捗状況	平成23年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	既存統計データ	後期計画期間の事業実績 (単位:千円)				平成24年度の方向性	所管課
							年度	進捗状況	予算額	決算額		
1	養育支援訪問事業	拡充		A	「こんにちは赤ちゃん事業」や関係機関等からの情報収集等により把握した養育支援が必要であると認められた家庭に対し、育児・家事の援助又は育児支援に関する技術的援助を専門の相談員等が訪問により実施する。	H22 ケース報告会議 12回 訪問ケース数 10件 延べ訪問件数 23件 H23 ケース報告会議 12回 訪問ケース数 12件 延べ訪問件数 17件	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 — — H26 — — 計 0 0	前年度と同数の会議を実施する。出生後早期の相談支援を行うとともに、ニーズの把握に努める。	子育て支援課			
2	家庭児童相談	拡充		A	子どもの発達に関すること、学校生活(幼稚園、保育園等も含む)、家族関係などの相談に応じた。相談件数 4,150件	H22 相談件数 3,645件 H23 相談件数 4,150件	H22 A 4,961 4,948 H23 A 7,307 7,330 H24 9,687 H25 — — H26 — — 計 21,955 12,278	引き続き、子どもの発達に関すること、学校生活、家族関係などの相談に応じていく。	子育て支援課			
3	要保護児童対策地域協議会	拡充		A	要保護児童の早期発見や適切な支援を図るため、当協議会において関係機関が情報や考え方を共有し、適切な連携ができるよう協議した。代表者会議 2回 実務者会議 9回 個別ケース会議 17回	H22 代表者会議 1回 実務者会議 9回 H23 代表者会議 2回 実務者会議 9回 個別ケース会議 17回	H22 A 570 449 H23 A 670 403 H24 631 H25 — — H26 — — 計 1,871 852	引き続き、前年度と同数程度の会議を開催するとともに、効率的かつ効果的な会議を目指す。	子育て支援課			
4	ふれあい親子支援事業	継続		A	コアラの会(育児不安が強く、支援が必要な保護者のグループミーティング)を開催し、育児不安の解消に努めた。	コアラの会 H22: 12回 延53組 H23: 12回 延55組	H22 A 288 288 H23 A 288 286 H24 290 H25 — — H26 — — 計 866 574	コアラの会を開催し、育児不安の解消に努める。	健康づくり支援課			
5	保健師による訪問指導	拡充		A	児童虐待予防のため、訪問による支援が必要な母子に対し、保健婦等による訪問指導を実施した。また、要支援者への関わりの学びを深めるため、講師を招いての事例検討会を実施した。	延訪問件数 H22: 435件 H23: 586件	H22 A 60 60 H23 A 60 60 H24 60 H25 — — H26 — — 計 180 120	児童虐待予防のため、訪問による支援が必要な母子に対し、保健婦等による訪問指導を実施する。また、事例検討会を実施し要支援者への関わりの学び支援に生かしていく。	健康づくり支援課			
6	こんにちは赤ちゃん事業	新規	訪問率(産婦・新生児訪問指導を含む) 100%	A	生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、子育て支援と情報提供を行った。	H22: 2,395件訪問 82.6% H23: 2,429件訪問 84.7%	H22 A 11,111 9,758 H23 A 10,821 10,000 H24 10,821 H25 — — H26 — — 計 32,753 19,758	生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、子育て支援と情報提供を行う。	健康づくり支援課			

7	周産期からの虐待予防強化事業	新規		A	高度専門医療機関と連携し、周産期の段階から支援が必要とされる家庭を積極的に把握し、訪問等を行い支援し、早期に育児不安の解消を図った。	情報提供件数 H22: 67件 H23: 72件	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 — — H26 — — 計 0 0	高度専門医療機関と連携し、周産期の段階から支援が必要とされる家庭を積極的に把握し、訪問等を行い支援し、早期に育児不安の解消を図る。	健康づくり支援課
---	----------------	----	--	---	--	--------------------------------	--	---	----------

【網掛け】重点施策

【進捗状況】 A: 順調 B: やや遅れている C: 遅れている D: 当該年度予定なし E: 終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

(単位: 千円)

6-(2) ひとり親家庭等の自立支援の推進

No.	事業名	目標	目標事業量	平成23年度末進捗状況	平成23年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	既存統計データ	後期計画期間の事業実績				平成24年度の方向性	所管課
							年度	進捗状況	予算額	決算額		
1	ひとり親家庭相談	拡充		A	母子自立支援員がひとり親家庭の親などの様々な悩みや社会生活全般についての相談に応じた。 母子家庭相談 7,067件 父子家庭相談 121件	H22 母子家庭相談 6,075件 父子家庭相談 53件 H23 母子家庭相談 7,067件 父子家庭相談 121件	H22 A 6,894 6,894 H23 A 6,872 6,852 H24 6,673 H25 H26 計 20,639 13,746	引き続き、ひとり親家庭の様々な相談に応じる体制を整え、当該家庭の自立と福祉の推進を図る。	子育て支援課			
2	母子家庭等日常生活支援事業	拡充		A	母子家庭の母が出産に伴い、一時的に生活困難になった家庭に対して、支援員を派遣した。 派遣世帯 7世帯(延べ73時間)	H22 派遣世帯 1世帯(延べ7時間) H23 派遣世帯 7世帯(延べ73時間)	H22 A 125 11 H23 A 92 112 H24 92 H25 H26 計 309 123	引き続き、支援が必要な家庭に支援員を派遣し、当該家庭の自立と福祉の増進を図るとともに、ニーズの把握と制度の周知を図る。	子育て支援課			
3	母子寡婦福祉資金	継続		A	母子家庭の母及び寡婦の経済的自立を図り、併せてその児童の福祉の推進を図るため、必要な資金を貸し付けた。 母子 165件 83,251,000円 寡婦 2件 1,368,000円 また、貸し付けた資金の償還も行った。	H22 母子 162件 82,961,500円 寡婦 1件 636,000円 H23 母子 165件 83,251,000円 寡婦 2件 1,368,000円	H22 A 89,000 83,873 H23 A 84,000 84,820 H24 100,400 H25 H26 計 273,400 168,693	引き続き、母子家庭の母及び寡婦の自立とその児童の福祉を増進するため、必要な資金を貸し付けるとともに、資金の償還も行っていく。	子育て支援課			
4	児童扶養手当	継続		A	父又は母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立の促進を図るため、当該児童を養育している者に児童扶養手当を支給した。 総支給額 1,072,923,661円 受給資格者 2,823人(H23年度末現在)	H22: 総支給額 1,013,786,506円 受給資格者 2,683人(年度末) H23: 総支給額 1,072,923,661円 受給資格者 2,823人(年度末)	H22 A 1,013,787 1,013,787 H23 A 1,084,969 1,072,924 H24 1,124,478 H25 H26 計 3,223,234 2,086,711	引き続き、適切に児童扶養手当の支給、管理を行っていく。	子育て支援課			
5	川越市遺児手当	継続		A	遺児の健全な育成を図るため、当該遺児の保護者に遺児手当を支給した。 総支給額 2,269,500円 受給資格者 18人(H23年度末現在)	H22: 総支給額 2,516,000円 受給資格者 17人(年度末) H23: 総支給額 2,269,500円 受給資格者 18人(年度末)	H22 A 2,856 2,516 H23 A 2,856 2,270 H24 2,652 H25 H26 計 8,364 4,786	引き続き、適切に遺児手当の支給、管理を行っていく。	子育て支援課			

6	母子生活支援施設	継続		A	母子家庭又はそれに準ずる事情の家庭で、その監護すべき児童の福祉に欠けることがある場合、母子ともに入所させ、保護、指導を行うとともに自立を支援した。 また、退所した母子の生活状況の把握と生活安定のための支援に努めた。 32世帯(人数 129人)	入所世帯数 H22 70世帯(人数225人) H23 32世帯(人数129人)	H22 A 7,288 4,947 H23 A 4,045 3,833 H24 4,166 H25 H26 計 15,499 8,780	引き続き入所の母子の保護、指導を行うとともに、退所した母子への支援を行っていく。	子育て支援課
7	ひとり親家庭等医療費	継続		A	ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援し、福祉の増進を図るためにひとり親家庭等に医療費の一部を支給した。 支給件数 24,518件 支給額 62,986,930円	支給件数 H17 15,828件 H18 19,162件 H19 21,649件 H20 23,567件 H21 25,242件 H22 25,077件 H23 24,518件	H22 A 68,151 65,537 H23 A 70,131 63,890 H24 67,095 H25 H26 計 205,377 129,427	ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援し、福祉の増進を図るためにひとり親家庭等に医療費の一部を支給する。	医療助成課
8	母子家庭等就業・自立支援センター事業	新規	延べ利用者数 300人/年	A	託児付きの就労支援セミナーやパソコン講座を開催することにより、就労面から母子家庭の自立を支援した。また、併せて就労に関する相談を受け付けた。 セミナー 8人 パソコン講座 23人 就労相談 319人	セミナー パソコン講座 就労相談 H22 13人 24人 323人 H23 8人 23人 319人	H22 A 196 165 H23 A 213 123 H24 140 H25 H26 計 549 288	引き続き、託児付き講座等の開催、就労相談の実施により、就労面から母子家庭の自立を支援していく。	子育て支援課
9	ひとり親家庭生活支援事業	新規	延べ利用者数 80人/年	A	母子家庭の母などの情報交換の場であるシングルマザー交流会を開催した。 全3回 延べ33人(母子)	H22 4回 延べ65人 H23 3回 延べ33人	H22 A 223 168 H23 A 231 118 H24 167 H25 H26 計 621 286	引き続き、母子家庭の母などを対象に情報交換及び悩み相談の場を定期的に提供し、当該家庭の福祉の増進を図っていく。	子育て支援課
10	母子家庭等自立支援給付金事業	新規		A	主体的に資格取得等を目指す母子家庭の母を対象に給付金を支給した。 高等技能訓練促進費 29件(延べ317月) 入学支援修了一時金 7件 自立支援教育訓練給付金 4件	H22 高等技能:20件(延べ236月) 教育訓練:4件 H23 高等技能:29件(延べ317月) 入学支援修了一時金:7件 教育訓練:4件	H22 A 31,191 30,675 H23 A 58,849 41,288 H24 52,108 H25 H26 計 142,148 71,963	引き続き、主体的な資格取得のために、給付金を支給し、母子家庭の自立を支援していく。	子育て支援課
11	母子自立支援プログラム策定事業	新規	プログラム策定件数 40件/年	A	児童扶養手当受給者を対象に、自立を促進するための自立支援プログラムを策定し、きめ細やかに継続的な就労支援を行った。 プログラム策定件数 40件	H22 プログラム策定件数 39件 H23 プログラム策定件数 40件	H22 A 1,152 1,136 H23 A 1,152 1,168 H24 1,152 H25 H26 計 3,456 2,304	引き続き、児童扶養手当受給者の自立を支援するために自立支援プログラムを策定し、継続的な就労支援を行っていく。	子育て支援課
12	女性のための相談事業	継続	相談日数 100日/年	A	DV、女性の抱えるさまざまな問題、性別による差別的扱い等に関する相談に対し、問題を解決するための助言、関係機関の紹介等を行った。	H22 カウンセリングルーム 67件 女性相談 256件 H23 カウンセリングルーム 65件 女性相談 341件	H22 A 2,274 2,373 H23 A 2,796 2,658 H24 2,834 H25 H26 計 7,904 5,031	関係各課と連携を図り、今後も相談体制を充実していく。	男女共同参画課

13	川越市父子家庭貸付事業	新規	A	父子家庭の父の経済的自立を図り、併せてその児童の福祉の増進を図るため、必要な資金を貸し付けた。 3件 1,448,000円	H22	2件	222,000円	H22	A	3,035	251	引き続き父子家庭の父の経済的自立とその児童の福祉の増進を図るため、必要な資金を貸し付ける。	子育て支援課
					H23	3件	1,448,000円	H23	A	3,021	1,454		
					H24			H24		1,813			
					H25			H25					
					H26			H26					
					計			計		7,869	1,705		

【網掛け】重点施策

【進捗状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

(単位:千円)

6-(3) 障害児施策の充実

No.	事業名	目標	目標事業量	平成23年度末進捗状況	平成23年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	既存統計データ	後期計画期間の事業実績				平成24年度の方向性	所管課
							年度	進捗状況	予算額	決算額		
1	生活サポート事業	継続		A	対象者数 105人	対象者数 平成22年度 104人 平成23年度 105人	H22	A	6,189	6,189	サービスの利用にあたり、その利用料の自己負担額の軽減を図るため所得に応じた補助を継続して行う。	障害者福祉課
H23	A	7,467	6,695									
H24		5,869										
H25												
H26												
計		19,525	12,884									
2	緊急一時保護事業	継続		A	保護件数 160件 実利用人数 31人	H22 保護件数 216件 実利用人数 34人 H23 保護件数 160件 実利用人数 31人	H22	A	-	-	緊急に保護が必要になった障害児の一時保護を継続して行っていく。	障害者福祉課
H23	A	-	-									
H24		-										
H25												
H26												
計		0	0									
3	障害のある子どもへの補装具等の交付	継続		A	購入 181件 22,349,067円 修理 87件 2,932,628円	H22 購入 212件 23,704,118円 修理 94件 2,067,103円 H23 購入 181件 22,349,067円 修理 87件 2,932,628円	H22	A	30,822	25,771	障害児の身体機能を補完する補装具等を作成・修理する費用の支給を継続していく。	障害者福祉課
H23	A	23,904	25,282									
H24		26,677										
H25												
H26												
計		81,403	51,053									
4	障害のある子どもへの各種手当の支給	継続		A	重度の障害児に対して、経済的及び精神的負担の軽減を図るため障害児福祉手当を支給した。 14,380円×287人=4,127,060円(延べ人数) 14,330円×1,458人=20,893,140円(延べ人数) ※年度途中で単価の変更あり	H22	A	24,158	24,144	重度の障害児に対して、経済的及び精神的負担の軽減を図るため障害児福祉手当を支給していく。	障害者福祉課	
						H23	A	25,884	25,020			
H24		25,794										
H25												
H26												
計		75,836	49,164									
A	児童の心身の健やかな成長に資するため、在宅の障害児を育てている方に特別児童扶養手当を支給した(支給要件有)。 支給者数 407人	H22	A	82	82	引き続き、在宅の障害児を育てている方に特別児童扶養手当を支給する。	子育て支援課					
		H23	A	82	82							
H24		82										
H25												
H26												
計		246	164									

5	障害者相談支援事業	継続		A	相談件数 4,256件	相談件数 H22 5,200件 H23 4,256件	H22 A 58,600 58,600 H23 A 58,840 58,840 H24 58,840 H25 H26 計 176,280 117,440	障害児(者)又はその家族からの相談に総合的・専門的に応じ、日常生活の支援を行う。	障害者福祉課
6	紙おむつ給付事業	継続		A	利用人数178人(平成24年3月末) 延べ人数(年間)2,159人	H22 利用人数174人 (平成23年3月末) 延べ人数(年間)2,027人 H23 利用人数178人 (平成24年3月末) 延べ人数(年間)2,159人	H22 A 9,023 9,023 H23 A 9,754 9,487 H24 10,259 H25 H26 計 29,036 18,510	在宅の常時失禁状態にある障害児(者)に対して継続して紙おむつを支給することにより、経済的負担の軽減を図る。	障害者福祉課
7	統合保育事業 (5-(2)-3の再掲)	継続		A	障害児及び健常児の成長と発達を促進するため、保育所において統合保育を実施している。	平成22年4月時 73人実施 平成23年4月時 73人実施	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	統合保育の充実に努めていく。	保育課
8	グループ指導会	継続		A	家庭児童相談員が、主に発達につまづきのある3歳児を対象に、将来の集団生活に備えて、小グループにおいてプレイセラピーを中心とした発達支援を行った。 31回 延べ391人	H22 30回 延べ626人 H23 31回 延べ391人	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	引き続き、家庭児童相談員が、主に発達につまづきのある3歳児を対象に発達支援を行っていく。	子育て支援課
9	家庭児童相談 (6-(1)-2の再掲)	拡充		A	子どもの発達に関する事、学校生活(幼稚園、保育園等も含む)、家族関係などの相談に応じた。 相談件数 4,150件	H22 相談件数 3,645件 H23 相談件数 4,150件	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	引き続き、子どもの発達に関する事、学校生活、家族関係などの相談に応じていく。	子育て支援課
10	障害のある子どもに対する教職員研修事業	継続		A	障害のある児童生徒への理解と指導力の向上、校内支援体制の整備に向け、研修を実施した。 特別支援教育コーディネーター養成研修会3回168名参加 就学相談担当者研修会1回 54名参加 発達障害の理解と指導法研修会3回 54名参加 特別支援教育支援員研修会1回 90名 特別支援学級・通級指導教室担当者研修会1回 54名	研修の充実により、特別支援教育への理解と指導力の向上が図られた。	H22 A 125 40 H23 A 100 20 H24 80 H25 H26 計 305 60	昨年度までの研修に加え、特別支援学級担任・通級指導教室担当者研修会を新設し、担当教員の指導力向上を図る。	教育センター (旧 教育研究所)
11	知的障害児通園施設	新規		B	あけぼの児童園において、知的障害のある子供の特性に応じて日常生活及び社会適応のための支援を行った。		H22 B 59,534 56,154 H23 B 59,133 56,853 H24 57,929 H25 H26 計 176,596 113,007	引き続き、子どもの特性に応じた支援を行っていく。	保育課

12	肢体不自由児認可通園施設	拡充		B	ひかり児童園を肢体不自由児認可通園施設として整備するための課題整理を行い、新施設の導入機能および建設場所について検討を行った。		H22 H23 H24 H25 H26 計	B B 42,454 142,211	51,379 48,378 42,454 85,099	42,454 42,645 85,099	児童福祉法改正による障害児施設の見直しに伴い、新施設建設に係る導入機能を再検討するとともに、用地選定を行う。	保育課
13	特別支援教育支援員(自立支援サポーター)の配置	継続		A	通常の学級に在籍する発達障害等のある児童生徒を支援するために、自立支援サポーター27名を年間80日派遣した。	小学校26校、中学校7校からの要請に対し、33校全てに配置し、個別学習指導や一斉学習指導における個別支援や適応指導等を通して、小学校・中学校に適切な支援を行うことができた。	H22 H23 H24 H25 H26 計	A A 11,312 27,774	6,599 9,863 11,312 44,746	5,619 8,587 14,206	9名増員された自立支援サポーター27名の配置の工夫により、より適切な個別的支援の充実を図る。	教育センター(旧 教育研究所)
14	特別支援教育支援員(臨時指導員)の配置	継続		A	介助等を必要とする児童生徒に対して、小学校17校、中学校7校、市立特別支援学校1校に特別支援教育支援員(臨時指導員)76名を配置した。	要請のあった市立小・中・特別支援学校に対して、ほぼ配置し、児童生徒の学習活動における介助等を実施することで、障害のある児童生徒への教育の充実を図ることができた。	H22 H23 H24 H25 H26 計	A A 308,414	109,831 103,624 94,959 308,414	86,951 92,324 179,275	児童生徒の状態をよりの確に把握し、適正な配置を図る。	教育センター(旧 教育研究所)
15	ダウン症のある子どもを持つ親の会(1-(1)-22の再掲)	継続		A	いもっこの会(ダウン症のある子どもを持つ親の会)を開催し、親同士の交流の場として情報交換を実施した。	いもっこの会 H22: 9回 57人 H23: 11回 88人	H22 H23 H24 H25 H26 計	A A 0	— — 0	— — 0	いもっこの会を開催し、親同士の交流の場として情報交換を実施する。	健康づくり支援課
16	すくすくクリニック(1-(1)-24の再掲)	継続		A	低体重児等を対象に診断、相談を行い、健やかな発育発達を支援した。	すくすくクリニック H22: 12回 65人 H23: 11回 40人	H22 H23 H24 H25 H26 計	A A 0	— — 0	— — 0	低体重児等を対象に診断、相談を行い、健やかな発育発達を支援する。	健康づくり支援課
17	発育・発達クリニック(1-(1)-25の再掲)	拡充		A	成長や精神・運動発達に心配がある乳幼児を対象に医師による診察・相談を行い、発育発達を支援した。	発育発達クリニック H22: 11回71人 H23: 11回71人	H22 H23 H24 H25 H26 計	A A 0	— — 0	— — 0	成長や精神・運動発達に心配がある乳幼児を対象に診察・相談を行い、発育発達を支援する。	健康づくり支援課
18	子どものこころの健康相談(1-(1)-26の再掲)	拡充		A	こころの健康と精神・運動発達に心配がある乳幼児を対象に医師による診察・相談を行い、発育発達を支援した。	子どものこころと健康相談 H22: 12回56人 H23: 11回48人	H22 H23 H24 H25 H26 計	A A 0	— — 0	— — 0	平成24年度より、発育発達クリニックと統合し、精神・運動発達に心配がある乳幼児を対象に診察・相談を行い、発育発達を支援していく。	健康づくり支援課

19	自立支援医療(育成医療)給付 (1-(4)-4の再掲)	継続		A	身体に障害のある児童に対して、健全育成・福祉の向上を図るため必要な医療の給付を行った。	受給者 H22:115人 H23:108人	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 — — H26 — — 計 0 0	身体に障害のある児童に対して、健全育成・福祉の向上を図るため必要な医療の給付を行う。	健康づくり支援課
20	小児慢性特定疾患医療給付 (1-(4)-6の再掲)	継続		A	小児慢性特定疾患のうち、国が指定した特定疾患について病気の治療研究を推進し、家族の経済的負担を軽減するため、必要な医療の給付を行った。	受給者 H22:255人 H23:263人	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 — — H26 — — 計 0 0	小児慢性特定疾患のうち、国が指定した特定疾患について病気の治療研究を推進し、家族の経済的負担を軽減するため、必要な医療の給付を行う。	健康づくり支援課
21	学童保育事業 (5-(1)-1の再掲)	拡充	学童保育室入室の規定に対して障害児の受け入れは100%入室	A	保護者の就労等により、放課後の家庭が常時留守になっている障害のある児童を、市内32学童保育室で保育した。【54人】 障害児に関わらず、入室の規定に適合していれば100%受け入れている。	年度当初学童保育室に入室する障害のある児童数 平成20年度 64人 平成21年度 48人 平成22年度 50人 平成23年度 54人 平成24年度 51人	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 — — H26 — — 計 0 0	保護者の就労等により、家庭が常時留守になっている障害のある児童を預かり、必要に応じ、指導員等を加配し、保育する。	教育財務課

(7)基本目標7 子ども等にやさしく、安全・安心なまちづくりの推進

【網掛】重点施策

【進捗状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

7-1) 良質な住宅・良好な居住環境の確保

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成23年度末 進捗状況	平成23年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	既存統計データ	後期計画期間の事業実績				平成24年度の方向性	所管課
							年度	進捗状況	予算額	決算額		
1	地域優良賃貸住宅	継続		D	新規供給計画の申請なし	市認定実績なし 市内特優賃戸数(県認定分) 23年度末 120戸 22年度末 131戸 21年度末 159戸 20年度末 161戸 19年度末 165戸	H22	D	2,028	—	事業者からの申請希望等があった場合の事前相談等に対応していく。ただし、市内の既存物件の空室が埋まらず戸数が減少している状況のため、慎重に対応する必要がある。	建築住宅課
						H23	D	1,014	—			
						H24		—				
						H25						
						H26						
						計		3,042	0			
2	公営住宅における優先入居	継続		A	登録方式による募集に際し、母子世帯、多子世帯を優遇して登録を行った。	H22 【母子世帯の登録数】18世帯 【多子世帯の登録数】3世帯 ※入居は23年度から H23 【母子世帯の登録数】22世帯 【多子世帯の登録数】1世帯 ※入居は24年度から	H22	A	—	—	住宅困窮度判定基準に基づき、原則として、登録方式での優遇を中心に行っていく。	建築住宅課
						H23	A	—	—			
						H24		—				
						H25						
						H26						
						計		0	0			
3	シックハウス対策	継続		A	建築基準法に基づく確認、検査を行った。		H22	A	—	—	建築基準法に基づく確認、検査を行う。	建築指導課
						H23	A	—	—			
						H24		—				
						H25						
						H26						
						計		0	0			

5	交通安全看板	継続	40本	A	警戒標識・注意看板を設置した。 67本	22年度62本 23年度67本	H22 A 項目3に含まれる H23 A H24 H25 H26 計 0 0	警戒標識・注意看板を設置する。	安全安心生活課
6	道路照明灯	継続	3基	A	道路照明灯を新設した。 新設 6基	22年度新設6基 23年度新設6基	H22 A 項目3に含まれる H23 A H24 H25 H26 計 0 0	道路照明灯を新設する。	安全安心生活課
7	信号機	継続		A	信号機等交通規制に関することは、所管が埼玉県公安委員会となるので、信号機設置箇所等について川越警察署と連携を図っている。		H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	信号機等交通規制に関することは、所管が埼玉県公安委員会となるため、信号機設置箇所等について川越警察署と連携を図る。	安全安心生活課

【網掛け】重点施策

【進捗状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

(単位:千円)

7-(3) 安全・安心なまちづくり

No.	事業名	目標	目標事業量	平成23年度末 進捗状況	平成23年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	既存統計データ	後期計画期間の事業実績			平成24年度の方向性	所管課
							年度	進捗状況	予算額		
1	安全・安心な都市公園の整備	拡充	改修数 年間20箇所	B	市民サービス向上のため、公園の施設改修や新規整備を実施。 実施公園数11公園 その他 ・砂場の浄化 111公園 ・高木等の剪定 13公園 ・遊具等の保守点検 162公園	H22: 延べ11公園の整備及び改修・補修を実施 H23: 延べ11公園の整備及び改修・補修を実施	H22 B 89,474 88,124 H23 B 85,900 69,600 H24 117,000 H25 H26 計 292,374 157,724	良好な避難場所の提供や、改修・補修による利用者の安全確保を行い、市民生活の向上を図る。	公園整備課		
2	旅客施設、車両等のバリアフリー化	継続	駅施設のバリアフリー化 100% ノンステップバス導入率 100%	A	東武東上線川越市駅のバリアフリー施設整備(エレベーター、多機能トイレ)を行った。 ※当初、平成22年度完了予定だったが、東日本大震災の影響により事業が23年度に繰越となり、23年4月25日に完了した。 ノンステップバス導入に対して補助を行った。(9台)	市内12駅全てがバリアフリー対応(地平駅含む) ノンステップバス導入率87.4%(平成23年度末現在)	H22 A 96,897 12,085 H23 A 82,264 81,267 H24 4,982 H25 H26 計 184,143 93,352	駅施設については目標事業量を達成済み。 ノンステップバス導入に対して補助を継続していく。	都市交通政策課		
3	バリアフリー新法に基づく所要の措置	継続		A	建築基準法に基づく確認、検査を行った。		H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	建築基準法に基づく審査、検査及び高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づく特定建築物の認定を行う。	建築指導課		

4	公共施設等のバリアフリー化	拡充	1,960m	A	歩道付道路を1,085m整備した。	H22 歩道整備延長 306m H23 歩道整備延長1,085m	H22 A 175,200 72,248 H23 A 139,500 203,874 H24 146,200 H25 H26 計 460,900 276,122	平成24年度は、4路線560mを整備予定。	道路建設課
				A	川越駅南大塚線、本川越駅前通線の整備に向けた準備を行った。	H22 歩道整備 17m	H22 A 12,200 11,086 H23 A — — H24 42,500 H25 H26 計 54,700 11,086	川越駅南大塚線の歩道170m(片側)の整備を行う。	街路課
				A	歩道付き道路の整備を434.8m行った。(内訳150.0m+284.8m)	H22 歩道整備 L=78.6m H23 歩道整備 L=434.8m	H22 A 7,896 6,284 H23 A 9,000 8,377 H24 13,000 H25 H26 計 29,896 14,661	引き続き歩道整備を進める。市内2路線・延長650mについて歩道整備を行う予定。	道路環境整備課
				D	※該当する事業が無かった。	H22 福原小及び川越小の体育館耐震補強工事に伴うトイレのバリアフリー化	H22 A — — H23 D — — H24 — H25 H26 計 0 0	バリアフリー化に適した事業に際し、対応していく。	建築住宅課
5	本庁舎における、子育て世帯にやさしいトイレ等の整備	継続		本庁舎5階のトイレの出入口扉を、軽くて安全な引き戸に改修した。 本庁舎3階男子トイレの小便器を床置きに改修した。	おむつ替え用ベットを3箇所設置 ベビーチェアを各トイレに1箇所設置(男女共) 授乳室を2区画設置	H22 A 1,300 1,280 H23 A 2,584 2,552 H24 — H25 H26 計 3,884 3,832	H24の改修予定なし。 緊急修繕等を実施する場合は、子育て世帯にやさしいトイレ等の整備に努める。	管財課	
6	防犯灯の整備	継続	年間の新設灯火350灯	防犯灯の新設及び既設の整備を行った。 新設:168灯 修繕:464灯 LED防犯灯への改修:719灯	新設工事 H17:235灯 H18:216灯 H19:223灯 H20:214灯 H21:195灯 H22:162灯 H23:168灯	H22 A 46,657 43,581 H23 A 74,935 72,994 H24 52,897 H25 H26 計 174,489 116,575	引き続き防犯灯の新設及び既設の整備を行い、夜間における身近な犯罪の防止に努める。	安全安心生活課	
7	赤ちゃんの駅	新規	50箇所	市内の公共施設40カ所を「赤ちゃんの駅」として指定して、授乳及びおむつ替等のスペースを提供した。 また、埼玉県との共催事業として民間施設においても「赤ちゃんの駅」を実施し、川越市内で合計122箇所の施設を登録。 登録施設には標識フラッグ等を掲示し、HPやモバイルサイトのほか、子育て情報誌、川越観光パンフレット、川越まつりパンフレット、小江戸川越マップ(HP上)に掲載した。	H22 市公共施設40カ所 川越市内105箇所 H23 市公共施設40カ所 川越市内122箇所	H22 A 2,615 2,333 H23 A — — H24 — H25 H26 計 2,615 2,333	埼玉県と協力して「赤ちゃんの駅」事業を広く周知し、指定施設を増やして乳幼児連れの保護者が安心して外出できる環境の整備を図る。 西武鉄道発行の観光情報誌(フリーペーパー)に赤ちゃんの駅を掲載する。	子育て支援課	

【網掛け】重点施策

【進捗状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

7-(4) 子ども等の交通安全を確保するための活動の推進

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成23年度末 進捗状況	平成23年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	既存統計データ	後期計画期間の事業実績				平成24年度の方向性	所管課
							年度	進捗状況	予算額	決算額		
1	交通安全教育	拡充	180回 21,000人	A	幼児・児童・母親及び高齢者に対する交通安全思想の普及を図るため実施した。 181回 18,687人	22年度安全教育177回 参加者17,515人 23年度安全教育181回 参加者18,687人	H22 A 2,040 1,988 H23 A 2,040 1,892 H24 2,040 H25 H26 計 6,120 3,880	幼児・児童・母親及び高齢者に対する交通安全思想の普及を図るため実施する。	安全安心生活課			
2	児童の登校時の交通安全確保	継続		A	児童・生徒の登校時における交通安全の確保・正しい交通ルールとマナーの指導を図るために実施した。 朝の立哨回数 9241回	22年度朝の立哨回数 8,860回 23年度朝の立哨回数 9,241回	H22 A 12,480 10,632 H23 A 12,240 11,089 H24 11,760 H25 H26 計 36,480 21,721	児童・生徒の登校時における交通安全の確保・正しい交通ルールとマナーの指導を図るために実施する。	安全安心生活課			
3	交通安全推進団体への補助	継続		A	交通安全推進協議会に¥1,290,000・交通安全母の会に¥900,000・川越交通安全協会に¥450,000・交通指導員会に¥45,000を補助した。	交通安全推進協議会129万円・交通安全母の会90万円・川越交通安全協会45万円・交通指導員会4.5万円	H22 A 2,685 2,685 H23 A 2,685 2,685 H24 2,685 H25 H26 計 8,055 5,370	交通安全を推進するため、交通安全推進協議会・交通安全母の会・川越交通安全協会・交通指導員会に対し補助金を交付する。	安全安心生活課			
4	交通安全運動	継続	年4回 約1,500人参加	A	幼児・児童・母親及び高齢者に対する交通安全思想の普及を図るために実施した。 12回 1,050人	平成22年度の交通運動12回 参加者数 1,050人 平成23年度の交通運動12回 参加者数 1,050人	H22 A 1,161 413 H23 A 431 397 H24 660 H25 H26 計 2,252 810	幼児・児童・母親及び高齢者に対する交通安全思想の普及を図るために実施する。	安全安心生活課			
5	放置自転車対策	継続	4,000台撤去	A	子供、障害者、高齢者等の通行の妨げである駅付近の公道上の放置自転車を撤去し、また、自転車を放置しないよう啓発した。 【市内11駅、撤去回数340回、撤去台数3,632台】	H22 市内11駅、撤去回数281回、撤去台数3,632台 H23 市内11駅、撤去回数340回、撤去台数3,632台	H22 A 34,887 32,706 H23 A 39,406 33,267 H24 37,566 H25 H26 計 111,859 65,973	川越駅西口を放置自転車禁止区域とするとともに、各駅における放置自転車の一層の減退を図るため引き続き撤去及び啓発活動などをメリハリをつけて実施する。	安全安心生活課			
6	シートベルト、チャイルドシートの着用促進	継続		A	夏の交通安全キャンペーンの際に積極的に着用促進の啓発を行った。		H22 A — — H23 A — — H24 — H25 H26 計 0 0	交通安全運動の際に啓発に努める。	安全安心生活課			

7	安全・安心な通学路の確保	新規	A	路面標示等による通学路の事故防止対策を実施した。 48箇所	H22路面標示48箇所・ヒヤリハットマップ55校 H23路面標示48箇所・H23道路照明灯5基	H22 A 10,000 8,625 H23 A 10,000 8,860 H24 10,000 H25 H26 計 30,000 17,485	引き続き緊急度の高いものから順次実施する。	安全安心生活課
				歩道付き道路の整備を434.8m行った。 (内訳150.0m+284.8m)	歩道整備 L=78.6m 歩道整備 L=434.8m	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	引き続き歩道整備を進める。市内2路線・延長650mについて歩道整備を行う予定。	道路環境整備課
				児童・生徒の通学路については、学校や地域の実情に応じ、交通事故及び不審者等からの児童生徒の安全確保のために、日常点検及び定期点検を実施した。 通学路の点検結果をもとに、登下校時の安全に係る相談や通学路の整備に係る要望がある場合には、他課と連携して、通学路の整備を通して児童・生徒安全の確保に努めた。	通学路点検全校実施	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	通学時の事故防止に向け学校と連携しながら通学路の整備をすすめていく。	教育指導課
8	児童等の自転車乗車時のヘルメットの着用	新規	A	小学校で行う交通安全教室で啓発した。	平成22年度 79回 延11,504人 平成23年度 38回 延7,027人	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	小学校で行う交通安全教室で啓発に努める。	安全安心生活課

【網掛け】重点施策

【進捗状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

7-(5) 子ども等を犯罪等の被害から守るための活動の推進

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成23年度末 進捗状況	平成23年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	既存統計データ	後期計画期間の事業実績				平成24年度の方向性	所管課
							年度	進捗状況	予算額	決算額		
1	川越市防犯のまちづくり基本方針に基づく各種施策	継続		A	防犯推進体制の整備、防犯意識の高揚、安全な地域コミュニティの推進強化に努めた。 ・市内の犯罪認知件数:5,081件	市内の犯罪認知件数 H17:7,836件 H18:7,226件 H19:6,654件 H20:6,152件 H21:5,807件 H22:5,165件 H23:5,081件	H22 A 10,150 10,126 H23 A 9,935 9,892 H24 9,643 H25 H26 計 29,728 20,018	犯行の機会を与えない、犯罪を起させない地域環境づくりを行う「防犯のまちづくり」を推進するため、ソフト・ハードの両面から総合的、効果的に地域の「領域性」や「監視性」を高めるための各種施策に努める。	安全安心生活課			
2	防犯推進体制の整備	継続	自主防犯活動を行っている団体数(自治会・PTA) 300団体	A	行政においては庁内関係部署による連絡会議・連携に努め、地域や警察関係との連携方策に取り組んだ。地域においては自治会を中心とした活動や地域防犯推進員等の活動の充実が図られるよう支援するとともに、「地域の安全は地域で守る」という認識に立ち、地域の推進体制整備に努めた。地域主体による自主性や地域の人員体制状況等からほぼ毎年度同数の団体数となっているのが現状である。 ・自主防犯活動を行っている団体数約250団体	自主防犯活動を行っている団体数 H21:250団体 H22:250団体 H23:250団体	H22 A — — H23 A — — H24 — — H25 H26 計 0 0	行政においては庁内関係部署による連絡会議・連携に努め、地域や警察関係との連携方策に取り組む。また、地域、事業所及び関係団体等と協働で、「地域の安全は地域で守る」という認識に立ち、自治会を中心とした地域における防犯推進体制の整備に努める。	安全安心生活課			

3	防犯意識の高揚 (犯罪情報・防犯情報の 収集と提供)	継続	メール配信 サービスの 登録件数 10,000件	A	随時、犯罪情報等を配信し、行政・警察・事業所・地域 住民が情報の共有化を図ることで、連携の強化と地 域における自主防犯活動の促進に努めた。 ・防犯対策情報・犯罪情報・不審者情報をEメールで 配信 登録数:8,941件	登録状況 H18:5,041件 H19:7,988件 H20:9,187件 H21:9,166件 H22:9,224件 H23:8,941件	H22 A 2,073 2,073 H23 A 2,205 2,205 H24 2,205 H25 H26 計 6,483 4,278	随時、犯罪情報等を配信し、行政・ 警察・事業所・地域住民が情報の共 有化を図ることで、連携の強化と地 域における自主防犯活動の促進に 引き続き努める。 小江戸川越防犯のまちづくり情報 メール配信サービスの充実につき 引き続き努める。	安全安心生 活課
4	安全な地域コミュニティ の推進	継続	年間の提供 団体数 20自治会等	A	地域における自主防犯活動をはじめとした各種活動 への参画を促進し、支援することにより、安全な地域 コミュニティの推進に努めた。 ・防犯パトロール用資機材等の提供(H23年度に指 定) 27自治会(強化地域) ・夜間パトロールグッズ配布 10自治会(本庁管内)	防犯パトロール用資機材等の提供 H16:10自治会等(重点地域) H17:51自治会(強化地域) H18:2自治会(強化地域) H19:24自治会(強化地域) H21:5自治会(強化地域) H22:14自治会(強化地域) H23:27自治会(強化地域)	H22 A 724 724 H23 A 812 785 H24 623 H25 H26 計 2,159 1,509	地域における自主防犯活動をはじ めとした各種活動への参画を促進 し、支援(夜間パトロール、強化地 域、新設自治会等)することにより、 安全な地域コミュニティの推進に努 める。	安全安心生 活課
5	防犯実技研修会	継続	教員54名 スクールガー ド68名	A	スクールガード・リーダー養成講習会を11月に実施 し、不審者対応の実技講習会を行った。	H23 具体的な護身術の講習を行うこと で、防犯意識の啓発と実技の習得 を図った。小学校全校にスクール ガード・リーダーを配置した。	H22 A — — H23 A — — H24 — H25 H26 計 0 0	スクールガード・リーダーを小学校 全校配置し、学校・家庭・地域の連 携をさらに推進する。	教育指導課
6	児童虐待防止の啓発 活動	継続	1回/年	A	11月14日(月)に、青少年健全育成や薬物乱用防止 などの啓発活動を行っている杉山裕太氏による児童 虐待防止推進講演ライブを実施し、1月28日(土)に、 夜回り先生水谷修氏による「子どもを非行や犯罪から 守るために今大人にできること」と題した講演会を実 施した。 11月の「児童虐待防止推進月間」にポスター、パネル 等の掲示をし啓発を促した。	H22 1回 参加者122名 H23 11月14日 参加者243名 1月28日 参加者425名	H22 A 138 132 H23 A 592 566 H24 167 H25 H26 計 897 698	引き続き、子育て講演会を実施し、児 童虐待防止の啓発を市民に対し、子育 ての大切さを訴え、児童福祉の増進を 図る。	子育て支援 課
7	「子ども110番の家」 (5-(3)-13の再掲)	継続		A	青少年を育てる市民会議の構成員である地区会議の うち、子ども110番の家を実施している地区会議に対 して、運営に係る経費を対象に補助金を交付した。 ・子ども110番の家実施地区会議数 16地区会議 (うち、11地区会議から請求があり交付した。)		H22 A — — H23 A — — H24 — H25 H26 計 0 0	子ども110番の家事業の実施によ り、子どもたちにとって安全で安心 な環境づくりを図っていく。	青少年課

【網掛け】重点施策

【進捗状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

7-(6) 被害に遭った子どもの支援の推進

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成23年度末 進捗状況	平成23年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	既存統計データ	後期計画期間の事業実績			平成24年度の方向性	所管課
							年度	進捗状況	予算額		
1	犯罪被害者支援推進協議会への補助	継続		A	被害者への支援として、市・警察・関係機関(協議会会員)への適切な引継ぎや被害者支援推進のための広報啓発に努めた。	川越市犯罪被害者支援推進協議会への助成 H17~H21年度1,440千円 H22年度~各年度243千円	H22 A	243	243	被害者への支援として、市・警察・関係機関(協議会会員)への適切な引継ぎや被害者支援推進のための広報啓発に努める。	安全安心生活課
2	家庭児童相談(6-(1)-2の再掲)	拡充		A	子どもの発達に関すること、学校生活(幼稚園、保育園等も含む)、家族関係などの相談に応じた。 相談件数 4,150件	H22 相談件数 3,645件 H23 相談件数 4,150件	H22 A	—	—	引き続き、子どもの発達に関すること、学校生活、家族関係などの相談に応じていく。	子育て支援課
3	要保護児童対策地域協議会(6-(1)-3の再掲)	拡充		A	要保護児童の早期発見や適切な支援を図るため、当協議会において関係機関が情報や考え方を共有し、適切な連携ができるよう協議した。 代表者会議 2回 実務者会議 9回 個別ケース会議 17回	H22 代表者会議1回 実務者会議9回 H23 代表者会議2回 実務者会議9回 個別ケース会議17回	H22 A	—	—	引き続き、前年度と同数程度の会議を開催するとともに、効率的かつ効果的な会議を目指す。	子育て支援課
							H23 A	—	—		
							H24	—	—		
							H25	—	—		
							H26	—	—		
							計	729	486		
							計	0	0		
							計	0	0		